



三明機工、タイ増強

アルミダイカスト 売り上げ2倍 周辺自動化システム

【静岡】三明機工(静岡市清水区、久保田和雄社長、054・366・0088)は、タイのチヨンブリ県アマタナコン工場団地内にあるタイ工場を同団地内で移転、拡張した。延べ床面積を70%増やして順次設備を増強し、アルミニウムダイカストマシン周辺設備の自動化システムなどの生産能力を50%高める。タイ現地法人の売り上げを2016年12月期に、13年12月期見込み比2倍の5億円を目指す。

三明機工は11年にタイに現地法人を設立。アルミダイカストを中心に、その周辺にロボットや加工機を置き、ラインを自動化するアルミダイカスト周辺自動化システムの構築を手がける。タイを中心に東南アジアやインドでも受注が増えており、インドでは日系自動車メーカー向けに同システムを11ライン納入したほか、他の日系自動車メーカーから同システムを受注した。13年12月期は売り上げ2億5000万円を見込んでいる。

新工場は延べ床面積1350平方メートル。現在ある溶接機、ドリルマシンのほか、14年以降、旋盤、フライス盤などを順次導入し、アルミダイカスト以外のFAシステムの需要にも対応していく。

同社はロボット・FAシステム、フラットパネルディスプレイ製造ライン自動化システム、ダイカストマシン周辺自動化システム、鑄造プラントなどを手がけている。